

### 聖書箇所 (1) : マタイによる福音書 18 : 1 - 6

- 1 : そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか？」(2) そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、
- 3 : 言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも、悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、はいれません。」
- 4 : だから、この子どもたちのように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。
- 5 : また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。(6) しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。

### 聖書箇所 (2) : マタイによる福音書 18 : 12 - 14

- 12 : あなたがたはどう思いますか。もし、だれかが百匹の羊をもっていて、そのうちの一匹が迷い出たしたら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜しにでかけないでしょうか。
- 13 : そして、もし、いたとなれば、まことに、あなたがたに告げます。その人は迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜ぶのです。(14) このように、この小さい者たちのひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではありません。

### メッセージ骨子 :

<序論> 「天の御国では誰が一番えらいのか？」という弟子たちが議論するのを聞いて、イエス様は、「悔い改めて、子どもたちのようにならないければ天国には入れない。」と言われました。天国でだれが偉いかという前に「入れないよ」と。それに続けて天国に入るための「条件」をイエス様は語られます。

### <ポイント1> 天の御国に入るためには、「方向転換して主を見上げる」こと

悔い改めとは、方向転換、つまりこれまで見ていたのとは違う方向を見るということです。人の批判ばかりする人には、「自分を見てみなさい、あなたも罪びとでしょう。」自分ばかりを見て落ち込む人には、「天を見上げなさい。」また人との比較に気を取られている人には「神の前には皆平等、かつ皆罪びとだよ」と言われます。悔い改めて、純心純粋な心で天を見上げることが、天国の条件なのです。

### <ポイント2> 天の御国に入るためには、「イエス様ゆえに子どもを受け入れる」こと

「ちいさな者につまずきを与えない、怒らせない」というイエス様の命令を守るには、子供のために背後の祈りを積むこと。祈りの裏打ちされた真剣さで接すること。子供だからとバカにしない、低く見ない、ひとりの人格として接すること、これが唯一の道なのです。子供イコールイエス様なのです。

### <ポイント3> 天の御国に入るためには、「オリジナルの自分を発見する」こと

イエス様が捜しに出た一匹の子羊は、外なる子供、社会的な弱者のみならず、「自分の中にいる子供の姿」をも指しています。あなたのその内なる子どもは元気でしょうか？知らず知らずのうちに、その子がどこかへ行ってしまっている、あるいはたとえ残っていてもボロボロになっている、あるいは傷ついて息も絶え絶えになってしまっていることはないでしょうか。イエス様は、そんなオリジナルの僕らを回復するために、捜し求めるために出て来てくださったのです。イエス様の十字架と復活は、自分をゆがめ、人をゆがめる罪の連鎖からの解放でした。そこには神を愛し、自分を愛し、人を愛する天の御国が広がっています。

<まとめ> 50年前の東京オリンピック 1万メートル走に参加したセイロンのカルナナンダは、決勝のスタート直後に腹痛に見舞われ、先頭集団から3周遅れとなってしまいます。が、途中棄権せずに黙々と走る彼を、当初は嘲笑交じりにながめていた国立競技場のスタンドの観衆でしたが、最後の一周にはいるとそれが驚きと感動の大歓声に変わります。ゴールしたカルナナンダは、その後のインタビューに「今1歳の息子に、『おとうさんは最後まであきらめなかったよ』と将来語って聞かせたい。そのためだけ走った。」と答えました。ブーイングも歓声も彼の耳には入っていませんでした。さて、あなたは誰のために走りますか？自分ですか？観衆ですか？またあなたは自分の子どもに、後輩に、どんな背中を見せようとしていますか。私たちが見るべき人は、多くはない。いや唯お一人なのではないでしょうか。あなたを愛してやまないイエスキリストの目線が、今あなたに注がれています。

「あなたはとんでもなく高価で、貴重な存在です。私はあなたを愛しています」 イザヤ 43 : 4